



ろうきんの理念と基本姿勢

ろうきんの理念

ろうきんは、働く人の夢と共感を創造する協同組織の福祉金融機関です。
ろうきんは、会員が行う経済・福祉・環境および文化にかかわる活動を促進し、人々が喜びをもって共生できる社会の実現に寄与することを目的とします。
ろうきんは、働く人の団体、広く市民の参加による団体を会員とし、そのネットワークによって成り立っています。
会員は、平等の立場でろうきんの運営に参画し、運動と事業の発展に努めます。
ろうきんは、誠実・公正および公開を旨とし、健全経営に徹して会員の信頼に応えます。

ろうきんの基本姿勢

私たちろうきんは、働く人たちの絆から生まれた働く仲間のための福祉金融機関です。
私たちは、ろうきん理念の基本にある次の「目的・運営・運用」に基づき、社会的使命をいつも考え事業活動を行っています。



〈ろうきん〉は、働く仲間がつくった福祉金融機関

〈ろうきん〉は、労働組合や生活協同組合の働く仲間が、お互いを助け合うために、資金を出し合ってつくった協同組織の金融機関です。世の中に金融機関はたくさんあります。しかし、純粋に働く人の福祉金融機関と呼べるのはただひとつ、〈ろうきん〉しかありません。働く人たちの暮らしを支え、快適で過ごしやすい社会づくりをめざしています。



〈ろうきん〉は、営利を目的としない金融機関

〈ろうきん〉は、労働金庫法という法律に基づいて、営利を目的とせず、公平かつ民主的に運営されています。この〈ろうきん〉独自の運営に共感する人たちの輪が日本中にひろがり、いまでは利用者が全国で約1,000万人。労働組合や生活協同組合の働く仲間をはじめ、多くの方々に広く利用されています。



〈ろうきん〉は、生活者本位に考える金融機関

〈ろうきん〉の預金・ローンなどの商品や各種サービスなどは一般の金融機関とほとんど変わりません。しかし、資金の運用がまったく違います。働く人たちからお預かりした資金は、働く人たちの大切な共有財産として、住宅・結婚・教育資金など、働く仲間とその家族の生活を守り、より豊かにするために役立てられています。

ろうきんの目的・事業運営3原則

ろうきんの目的や事業運営は労働金庫法によって規定されており、市中銀行との違いが明確に区分されています。

労働金庫法

(目的)

第1条 この法律は、労働組合、消費生活協同組合その他労働者の団体が協同して組織する労働金庫の制度を確立して、これらの団体の行う福利共済活動のために金融の円滑を図り、もつてその健全な発達を促進するとともに労働者の経済的地位の向上に資することを目的とする。

(原則)

第5条 金庫は、営利を目的としてその事業を行つてはならない。(非営利の原則)

2 金庫は、その行う事業によつてその会員に直接の奉仕をすることを目的とし、特定の会員の利益のみを目的としてその事業を行つてはならない。(会員直接奉仕の原則)

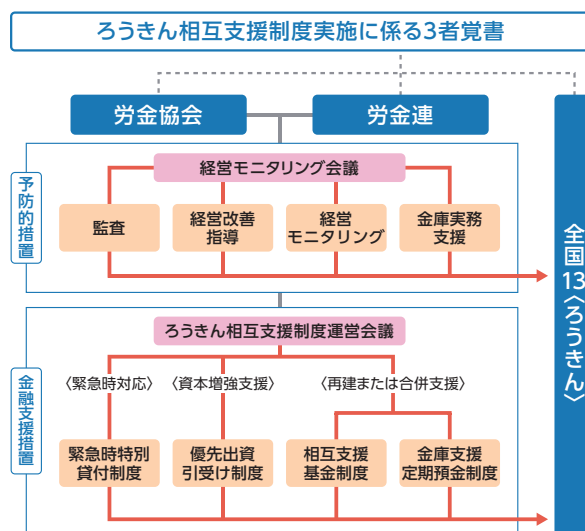
3 金庫は、その事業の運営については、政治的に中立でなければならない。(政治的中立の原則)

ろうきん業態セーフティネット

ろうきんでは、ろうきん業態独自のセーフティネットとして、「ろうきん相互支援制度」を設けております。この制度は、「予防的な措置」と「金融支援措置」という2つの仕組みを用意しています。

第1の柱である「予防的な措置」としては、全国13労働金庫の業態団体である全国労働金庫協会(労金協会)に設置された労働金庫監査機構による定期的な監査(金庫の業務執行や財務状況等についての監査)と労金協会による定期的な経営状況のモニタリングがあげられます。経営状況のモニタリング結果については、労金協会が開催する「経営モニタリング会議」へ報告され、経営上の問題が認められた場合には、問題の程度に応じた措置(経営改善指導等)が講じられる仕組みとなっています。

第2の柱である「金融支援措置」は、労金協会と労働金庫の系統中央金融機関である労働金庫連合会(労金連)が共同で開催する「ろうきん相互支援制度運営会議」において金融面での支援が必要と判断された場合、金庫の状況に応じて労金連の金融機能を活用し、一時的な資金の貸付である「緊急時特別貸付制度」、資本増強支援のための「優先出資引受け制度」、再建支援等のための「相互支援基金制度」や「金庫支援定期預金制度」を実施することで経営をサポートします。



労働金庫の概要

1.中国労働金庫の概要

項目	2023年度末
理事長	戸守 学
本店所在地	広島市南区稲荷町1番14号
創立	2003年10月1日(中国4労働金庫統合)
出資金	69億69百万円
預金残高	1兆3,023億2百万円
融資残高	8,503億73百万円
団体会員数	3,385会員
間接構成員数	602,116人
店舗数	39店舗

2.全国労働金庫の概要

項目	2023年度末
金庫数	13金庫
店舗数	596店舗
(うち支店)	549店舗
(うち出張所)	34店舗
会員数	100,926会員
(うち団体会員数)	47,759会員
常勤役員数	105人
職員数	10,988人
預金残高	23兆848億61百万円
貸出金残高	15兆5,716億55百万円

中国ろうきんのめざす姿

～ろうきんブランド確立への挑戦～

この取組みは、今後も職員が活き活きと働き続け、会員・構成員の皆さまに「お役立ち」し続けるために職員自身が“変わる”取組みです。2023年10月から、「中国ろうきんブランド確立に向けた施策」を全店でスタートしました。

と 中国ろうきんコア・バリュー



※2023年10月以降当金庫
ロゴマークに正式に表示

とことん聴きたい、あなたの思い

常務理事 瀬光 秀昭 書

「とことん」に、はたらくあなたとあなたの家族の生活にどこまでも向き合いたい、
「聴きたい」に、思い（夢）を実現させるため、あなたに寄り添いたいという決意を込めました。
「当金庫と他金融機関との違い＝当金庫のブランド」を表す言葉としてコア・バリューを策定しました。



こ 中国ろうきん行動指針の意義

私たちは日本で唯一の福祉金融機関の職員であることに誇りを持ちます。

「とことん聴きたい、あなたの思い」を念頭に置いて

大切なお客さまとお客さまのご家族のしあわせを第一に考えます。

そのしあわせを実現していくために日々の行動はどうあるべきでしょうか。

お客さまに信頼される職員となるために。お客さまに最高のお役立ちを届けるために。

未来へ続く中国ろうきんを実現するために。

その“道しるべ”となるものが中国ろうきん「行動指針」です。

と 行動指針

- | | | | |
|-------------|----------|-----------|-------------|
| 1 環境整備（5S） | 5 感謝 | 8 頂いた声は宝物 | 11 コンプライアンス |
| 2 気持ちの良い挨拶 | 6 前向き志向 | 9 自己研鑽 | 12 家族に寄り添う |
| 3 コミュニケーション | 7 変化を楽しむ | 10 伝える力 | 13 アフターフォロー |
| 4 チームワーク | | | |

ん ブランド確立に向けて

1 行動指針実践行動の全金庫共有

- ① 朝礼での共有
- ② 行動指針実践感動メモ
（全職員による投票等）

2 CSアンケート

お客さまより「お役立ち」に対する声をいただき、それを職員が実感することでモチベーションを向上させ、さらなる「お役立ち」の行動を生みだします。

3 会員さまからの感動メモ

会員・間接構成員の皆さまから、ろうきん職員の好ましい対応事例を『感動メモ』として募集します。

4 ES・CS委員会の設置

各店にES・CS委員会を設置し、感動メモ等の内容を会員の皆さまと共有する等、意見交換を行います。

この取組みについて営業店の職員に聞いてみました！

益田支店
三島 精司 支店長

当店では、行動指針をいつでも確認できるよう営業室内に掲示し、全職員意識を持って取り組むよう心掛けています。また、会員やお客さまからの「お役立ち」に対する感謝の声を職員が実感することでモチベーションを向上させ、さらなる「お役立ち」の行動に繋がっています。

広島西支店
向井 靖博 次長

「ブランド確立に向けた取組み」を行うことで職員のモチベーション向上や仕事への意欲も高まってきたと思います。また、理解が深まることで職場内に良い変化が生まれてきたと実感しています。

下松支店
田中 美沙 職員

「会員さまからの感動メモ」で、ある会員さまより私の笑顔に対してお褒めのメッセージをいただきました。照れくささもありますが、嬉しく感じます。いただいた声は自分の励みにし、これからもお客さまに対してより多くの感謝や感動を届けられるよう精進してまいりたいと思います。

この取組みについて会員の皆さまに聞いてみました！

水菱プラスチック労働組合
浅沼 英樹 執行委員長

相手に寄り添うという想いはいつかお役立ちに繋がり、共感の輪を拡大させる原動力になると思います。職員の皆さんの温かく気持ちのこもった想いをこれからも感じつつ、ブランド確立に向け共に歩んでいけたらと思います。

中国電力労働組合 島根原子力支部
團野 康宏 執行委員長

職員さんの日頃の熱心で親身な対応に感謝しています。それが感動メモとなり、心と心を結び温かいものとなり、ろうきんブランドにつながる、「人と人とのつながり」を大切にしているろうきんならではの取組みだと思います。



感動メモ「年間行動指針大賞」全文紹介 ～津山支店 難波 理恵子 職員～

感動メモとは・・・

行動指針に沿って実践された好事例を共有するためのメモを職員間で記入し合い、職場内、金庫全体で共有する仕組みを構築。職員から毎月提出を受け、職場内でのMVPの決定や全職員による投票、ニュース等により金庫全体で共有します。

● 相手を思いやる言葉と行動

難波さんは、小さなお子さま連れの方やご高齢の方など、お客さまに合わせた言葉をかけ、優しくサポートしています。ローカウンターへ案内し、落ち着いた環境の中で説明され、お見送りの際には「お気をつけてお帰りください。」と笑顔で最後まで丁寧に対応されています。その温かい対応がお客さまに安心感と信頼感を与えているのだらうと、お客さまの表情で感じられました。

さらに、仕事で苦戦している私に対しても疑問や不安に真摯に向き合ってくださいました。「ありがとね」、「がんばれー」など、そつと言葉をかけてくださり、その温かな配慮にとっても励まされています。

私も、難波さんの姿勢を見習いながら、心のこもった対応をし、思いやりをもって仕事をしていきたいと思いました。

2023年度における感動メモ登録数
行動指針実践感動メモ：1,711件
会員さまからの感動メモ：294件
たくさんの感動をありがとうございます！



難波 理恵子 職員（年間行動指針大賞受賞者）

この度、感動メモ「年間行動指針大賞」をいただき誠にありがとうございます。
津山支店へご来店されるお客さまは年齢層が幅広く、また会員さん、組合員さん、そのご家族など、日々様々な方が様々な用件で来店されます。そのため、丁寧な説明や、お客さまのニーズにあった提案ができるようにいつも心掛けています。これからも、お客さまに感動を届けられるよう努力していきます。

前原 岐美重 職員（感動メモ記入者）



難波さんの温かな対応に触れるたびに感動し、思いやりの配慮を持ち続けることの大切さを実感します。そのような難波さんの行動が表彰されることについて、大きな喜びを感じています。心からおめでとうございませう。これからもその温かな心を大切に、私にとっての憧れの存在でいてください。



瀬光 秀昭 常務理事

中国ろうきんブランドは、職員が「活き活きと働き続け」、会員の皆さまに「お役立ち」し続けられるために、「職員一人ひとりが『変わる』ための取組み」です。
もう一歩踏み込んだ言い方をすれば、「職員一人ひとりの『生活基盤を守る』ための取組み」とも言えます。
「13の行動指針」を日常的かつ無意識に実践することで、会員の皆さまに「感動」を与え「共感の輪」を拡げることがブランド定着の第一歩です。そのためには、自己の行動を顧み、「意識を変え、行動を変え、それを習慣化する」ことが重要となります。
最後になりましたが、津山支店の難波さん「2023年度年間行動指針大賞」の受賞、おめでとうございます。相手を思いやる気持ちを素直に体現できる行動に私も感銘し、刺激を受けたところです。
決められた型もゴールもない中国ろうきんブランドですが、多くの感動の言葉が届くよう、ともに心をつなげて魅力ある職場風土を創りあげていきたいと思います。